

PrefLight を DoctorMX から使用する例

外部照明卓の代わりに DoctorMX ソフトウェアから PrefLight へ接続して、動作を見ることができます。
DoctorMX インターフェイス・ボックスをお持ちでない方もお試しください。

DoctorMX インターフェイス・ボックスを接続した場合は、外部卓、DoctorMX ソフトウェアのどちらからも PrefLight が利用可能になる設定例です。

OSC を介しての接続

PrefLight と DoctorMX は「OSC」を介して接続が可能です。

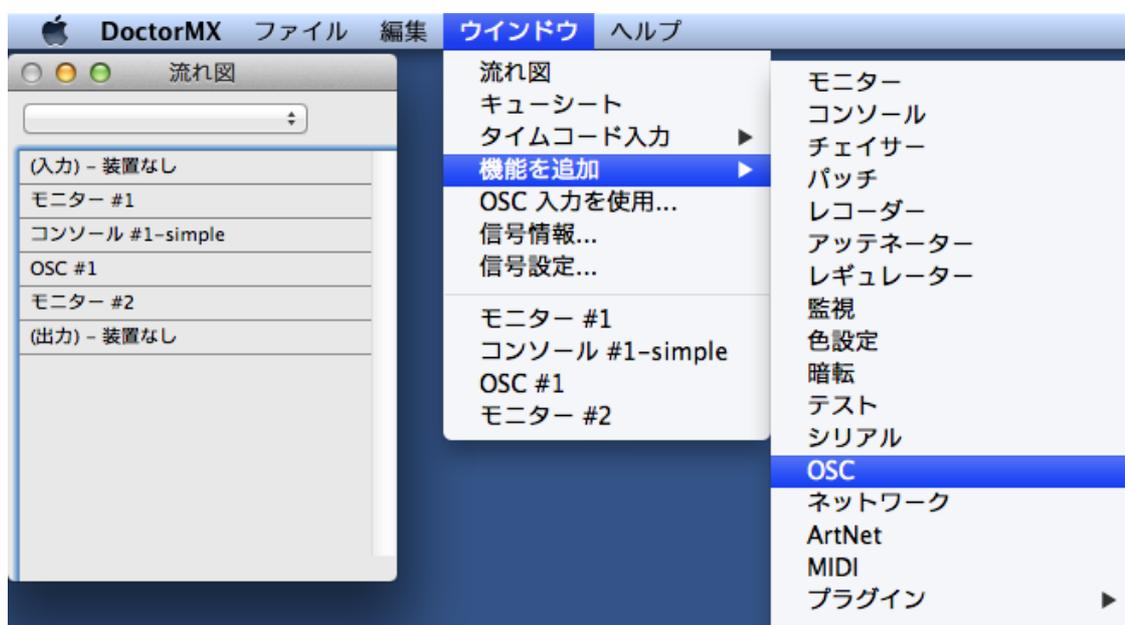
OSC での接続は、DoctorMX インターフェイスボックスが無くても使用可能です。

<DoctorMX 側の設定>

「OSC」の設定

DoctorMX の信号を OSC で送信するには「OSC」の機能を利用します。

流れ図への機能の追加は、「機能を追加」から目的の機能を選びます。



「OSC」の設定



動作：送信

DMX出力：切り替え

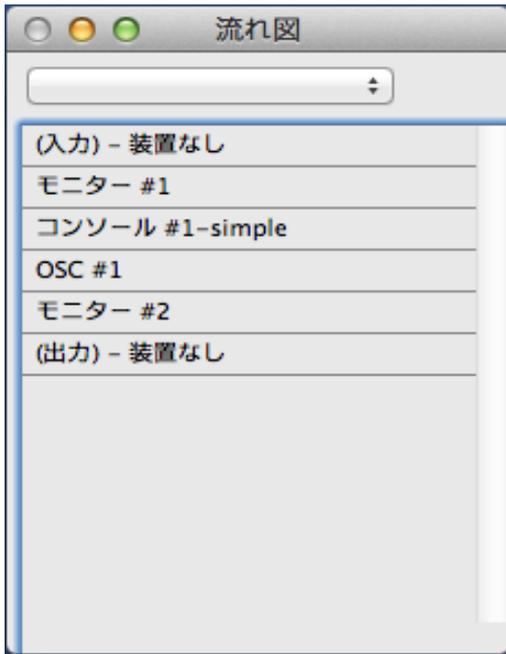
UDPポート：51002（PrefLight 側の設定と合わせます※1）

OSCアドレス：/dmx（PrefLight 側の設定と合わせます）

※1：PrefLight のUDPポートは「51002」固定です。

問題なければ「動作中」と表示されます。

ヒント：DoctorMX の信号は「流れ図」の上から下へ流れます。



「流れ図」の例

(入力) - 装置なし：

モニター #1：装置がないので、モニターする信号はありません。
インターフェイスボックスを接続した場合は、ボックスの DMX インへ接続した外部照明卓などからの信号をモニタできます。

コンソール #1：外部照明卓に相当する部分です。フェーダーのマニュアル操作の他に、シーンメモリーして呼び出すことも可能です。

OSC #1：OSC の設定を行います。

モニター #2：OSC、コンソールの出力をモニターすることができます。

(出力) - 装置なし：

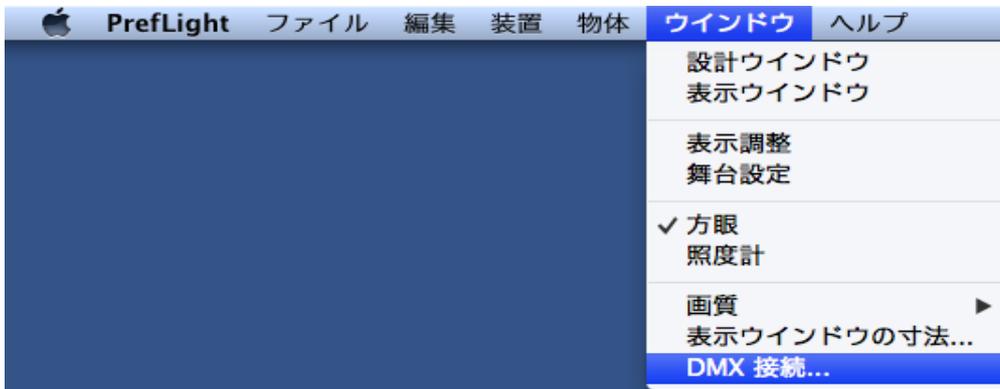
(入力)、(出力) はインターフェイスボックスが接続されていないので「装置なし」となります。

コンソールの信号を OSC で出力したい場合は、コンソールの下側へ「OSC」を置く必要があります。
仮に、コンソールの上側へ「OSC」を置いた場合は、コンソールの信号を送信することは出来ません。

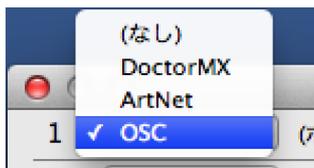
必要に応じて機種別コントローラーを追加してもお使いいただけます。
この場合も「OSC」機能より上側へ置いてください。

<PrefLight 側の設定>

「ウインドウ」メニュー、「DMX 接続...」の設定を行います。

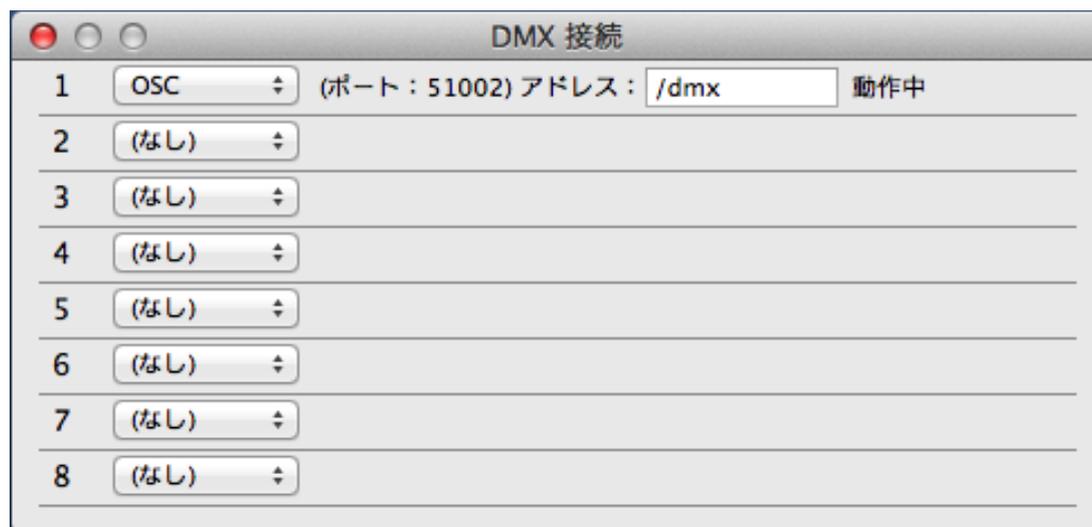


使用する系統（ユニバース）の設定を行います。
「1」の設定例です。



PrefLight で使用する入力を選択します。「OSC」を選びます。
(ここでの DoctorMX はインターフェイス・ボックスの意味です)

入力：OSC（ポート：51002）アドレス：/dmx
PrefLight のポートは 51002 固定ですので、DoctorMX 側で 51002 へ合わせます。
アドレスは DoctorMX の OSC 設定と合わせます。



問題なければ「動作中」と表示されます。
これで接続の設定は完了です。DoctorMX ソフトウェアからの信号を受ける準備ができました。

- 終わり -